

# 平成22年度 関西大学ミュージアム講座

総合テーマ：なにわの文化遺産(5)



第1回 10月 4日(月)  
古代の鑄造技術—梵鐘や大仏の作り方—

関西大学名誉教授  
赤松 勝也

第2回 10月18日(月)  
大阪の伝統工芸—茶湯釜と大阪浪華錫器—

関西大学非常勤講師  
吉田 晶子

第3回 10月25日(月)  
氏神のまつり—聖域と祭祀空間—

文学部教授  
黒田 一充



- 期間 平成22年10月4日／10月18日／10月25日
- 時間 10:30～12:00(90分)
- 会場 関西大学 大阪都市遺産研究センター セミナー室(1階)
- 対象 一般社会人
- 定員 100名
- 受講料 1000円



共催：関西大学博物館・大阪都市遺産研究センター  
関西大学社会連携部 地域連携センター

<http://www.kansai-u.ac.jp/renkei/kokaikoza/museum.html>

# 平成22年度 関西大学ミュージアム講座

総合テーマ：「なにわの文化遺産（5）」

## 講座概要

第1回 10月4日（月）

### 古代の鑄造技術—梵鐘や大仏の作り方—

関西大学名誉教授 赤松 勝也

人類は約7000年前にメソポタミア地方で金属材料を使用し始めました。そして、その優れた特性から生活用品や武具などへと応用範囲が広まり、我が国には弥生時代に伝わってきました。

さて、6世紀の中頃に我が国に仏教が伝来してきます。仏教は仏像を信仰の対象にするため、布教の場である寺院には仏像の他、梵鐘や灯籠などの仏具が必要になってきます。

今回は、古代に我が国で製造されたこれらの製品の製造法について金属工学的な立場から解説したいと思います。

第2回 10月18日（月）

### 大阪の伝統工芸—茶湯釜と大阪浪華錫器—

関西大学非常勤講師 吉田 晶子

大阪の伝統工芸品には、茶湯釜と大阪浪華錫器という金工品があり、いまま江戸時代以来の伝統を受け継ぎながら制作されています。

今回は、この二つの伝統工芸品を中心に、大阪における金工品の歴史をたどります。特に、江戸時代から近代にかけての展開に焦点をあてて、金工品の制作にかかわった職人の営業形態をみることで、大阪の「ものづくり」の特徴を考えてみたいと思います。

第3回 10月25日（月）

### 氏神のまつり—聖域と祭祀空間—

文学部教授 黒田 一充

パワースポットが、ブームになっています。そのほとんどが神社・仏閣のある聖地や聖域とよばれる場所ですが、どのような場所に神や仏がまつられるのか、またそこでのまつり方についてはあまりよく知られていません。モリ・ヤシロ・ミヤといった神社のまつり方の違いや、山と海を結ぶ祭祀空間、当番の家に神霊を迎えるお仮屋など、各地の氏神のまつりについて紹介します。

## 申込について

申込期間 平成22年9月8日（水）～9月22日（水）  
※定員を超えた場合、抽選

申込方法 参加ご希望の方は、はがきに  
①関西大学ミュージアム講座希望、②住所（郵便番号）、  
③氏名（ふりがな）、④年齢、⑤電話番号  
を記入して送付してください。  
9月27日以降、受講証を発行いたします。

問合せ先 関西大学地域連携センター  
TEL：06-6368-1245  
FAX：06-6368-1247（月～金 9:00～17:00）

申込先 〒564-8680 関西大学地域連携センター  
「関西大学ミュージアム講座」係（住所不要）

※申し込み時にご記入いただきました個人情報につきましては、受講者名簿の作成、各種講座・セミナーのお知らせの目的にのみ使用いたします。

※なお、申し込みいただきました方には今後2年間本講座の案内を送付させていただきます。案内がご不要の方は、申し込み時にその旨ご記入ください

## 大阪都市遺産研究センター セミナー室（1階）へのアクセス

阪急千里線「関大前」駅下車。北口を出て右手の階段を上がり、左に100m程進み、右に曲がります。真っ直ぐ進むと正門が見えます。正門を越えてすぐの坂道を左へ。坂を真っ直ぐ上っていき、右手に見える円形の建物が博物館です。博物館のすぐ左に併設している建物が大阪都市遺産研究センターですので、その1階がセミナー室です。

